

カンパチとトラフグの筋肉と肝臓における抗生物質の残留に及ぼす投薬用飼料の影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2025-04-24 キーワード: 作成者: 渡辺, 研一, 堀田, 卓朗, 飯田, 貴次 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014602

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



カンパチとトラフグの筋肉と肝臓における抗生物質の残留に及ぼす投薬用飼料の影響

渡辺研一・堀田卓朗・飯田貴次

配合飼料、モイストペレットおよび生餌に、塩酸オキシテトラサイクリン（OTC）またはエリスロマイシン（EM）を、体重1 kgあたり50 mg/日の投薬量となるように添加し、カンパチとトラフグに5日間（EM）または7日間（OTC）経口投与して、投薬用飼料が抗生物質の残留に及ぼす影響を調査した。投薬前および投薬終了の翌日、11、21、31日後の筋肉および肝臓中のOTCまたはEM濃度を測定したところ、投薬用の飼料の種類が水産用医薬品の残留性に影響を与える可能性はないものと考えられた。

栽培技研, 35(2), 31-40, 2008